

夕刊
磐城日報
発行所 磐城日報社
電話(一) 〇三六
印刷 印刷人 後藤政弘
毎週水曜日休刊 購読料 一月三十四円 一ヶ月三十四円

一月中旬開催と決定
工事は十二月末に完成か
(平競輪)

平市競輪第一回開催は過日廿一日(後節)の二節に分離された退去通告文及び佐久間の被告がしめつけたという出され、証人平職安所員岡田辰昭(三)同森本勝雄(三)同渡邊廣(三)縣職安監察官遠藤善政(三)平市仲町一八木工業大親金(三)の五名開催日を一月十三、十四、十五(前節)十九、二十、ある

職よこせ 二回公判

内郷町級元内郷自由労組長定尋間に引續き大塚、關内川端助松(三)他八名にかか兩辯護人から次のような控訴の平職安所「押しかけ事件」訴棄却の論告があつた
第二回公判は十七日午前十時から地裁平支部大法廷で前回は引續き猪狩判事係、高橋上席検事、石川検事、大塚、大塚辯護人、關内特別辯護人立會で開かれた、一方裁判所側では傍聴人の殺到と万に備え警備員を配置、もの／＼しい警戒が配られたが傍聴人はヤツと百名前後で法廷も極く静かに審理が進められた、九ため裁判は當然であると反人の被告中、紅一点の加藤論、次いで證據調べに入り高橋検事から事件當日告示數及び氏名を今日再

辯護 控訴棄却を要求

私は佐久間被告が所長のバンドを掴み所長が悲鳴をあげていたので佐久間被告の手を離してやつたがこの時右下腿をケラれた、所長室には平山、船生、森本、根本、渡邊各所員と遠藤監察官がいたと思うと
正午休廷

常磐で労資協議

通告は二十三日ごろ解雇は二十三日ごろ
常磐炭礦ではクアカ追放が表せよとの質問に對し会社側は追放者及び基準について十七日午前十時からは更に慎重に調査して二名を出席運管協議會を返答、来る二十三日ごろ再度協議會を開いて發表する

小兒科
呼吸器科
内科
平市古カヂ町(縣社下) 後藤醫院 電話1036

ヤミ米四俵を押收
平公安室では十七日午前十一時三分平警署常盤線上一二六列車に二名の公安官が警乗、平一原の町間の一齊取締りを行つたところ車内置去品二十五箇ヤミ米四俵を押收した

車内で睡眠中

五千三百圓を盗る
十七日常盤線急行二〇〇四列車内で千葉縣國鉄事業用品荷役株式會社取締役荒川吉四郎さん(三)は睡眠中、上衣ポケットから五千三百圓入りの定期券入れを盗られた平公安室に届出した

平電通管理所

19日落成式
平市堂ノ前市役所東側に新築された平電氣通信管理所、佐藤清子(二)の第二營業所より落成式を舉行する

ミス健康

常磐で五名を表彰
常磐交通株式會社では十日から一週間全国一齊に實施された労働衛生週間にちなんで十六日女子勤勞者百十名を對象に人物評價、勤務成績、体格体力、健康の四点に重きをおき會社四労働衛生管理者二、醫者一計九名審査のもと次の四名をミス健康として選抜當選者に對しては健康バッヂを贈呈した

- 一、内田八重子(二)植田所
- 二、平間京子(三)第一
- 三、諏訪さみ(三)第一
- 四、鴨沼泰代(二)第一
- 五、鶴沼泰代(二)第一

【株式速報】

和洋	240
和洋	167
和洋	146
和洋	104
和洋	187
和洋	144
和洋	137
和洋	108
和洋	144
和洋	37
和洋	44
和洋	173
和洋	59
和洋	68
和洋	144
和洋	197
和洋	210
和洋	106
和洋	84
和洋	166
和洋	173
和洋	59
和洋	68
和洋	144
和洋	197
和洋	210
和洋	106
和洋	84
和洋	166
和洋	173
和洋	59
和洋	68
和洋	144
和洋	197
和洋	210
和洋	106
和洋	84
和洋	166

落成—新築—祝
平電氣通信管理所
平市堂根町(市役所前)
所長 佐久山英次郎 (電1500番)
庶務課長 佐藤竹喜(電1201) 線路課長 長谷川昇作(電1202)
業務課長 三浦芳勝(電1202) 機械課長 椎名正雄(電1204)
平電話局 平市四丁目 業務長 加藤健治
平電報局 平市四丁目 業務長 佐藤政吉

平電氣通信管理所
新築工事施工者
丸茂土建工業所
所長 塩谷茂雄
平市十五町目 電話 一〇六二

